

藤田医科大学病院公的医療機関等 2025 プラン：新旧対照表

Page	第 1 版 策定日：平成 29 年 9 月策定	第 2 版 策定日：平成 30 年 11 月策定	改訂理由
P.1	藤田保健衛生大学病院 公的医療機関等 2025 プラン	藤田医科大学病院 公的医療機関等 2025 プラン	医療機関名変更のため
P.2	【藤田保健衛生病院の基本情報】 医療機関名：藤田保健衛生大学病院	【藤田医科大学病院の基本情報】 医療機関名：藤田医科大学病院	医療機関名変更のため
P.4	【4機能ごとの医療提供体制の特徴】 ・高度急性期1,982床は、藤田保健衛生大学病院（1,124床）、愛知医科大学病院（800床）で97%を占める。	【4機能ごとの医療提供体制の特徴】 ・高度急性期1,982床は、藤田医科大学病院（1,124床）、愛知医科大学病院（800床）で97%を占める。	医療機関名変更のため
P.10 9 行目	【2. 今後の方針】 ①地域において今後担うべき役割 藤田保健衛生大学病院は、“最高水準・質の医療を提供し、・・・	2. 今後の方針】 ①地域において今後担うべき役割 藤田医科大学病院は、“最高水準・質の医療を提供し、・・・	医療機関名変更のため
P.10 ～ P.11	【2. 今後の方針】 ①地域において今後担うべき役割 追記項目	【2. 今後の方針】 ①地域において今後担うべき役割 <重点取り組み事項> ・がん診療連携拠点病院として、低侵襲な診断・治療を推進する。特に画像診断では、高度な放射線機器による迅速で正確な診断を、手術療法ではロボット支援手術を中心とした低侵襲な治療の推進を行う。また緩和ケア医療では、地域における先導施設として、がん相談支援センターでの就労支援を含めたがん相談など、がん医療の全てにわたるけん引施設としての役割を担う。 ・50床の救命救急センター及び6床のSCU病棟が連携し、専門医による脳卒中救急患者に対する高度急性期医療を提供する。また充実したリハビリテーションにより脳卒中の急性期か	重点取り組み事項の追記

		<p>ら回復期までの一貫した社会復帰プログラムを実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心臓血管センターにおいて、循環器内科と心臓血管外科がチームとなって経カテーテルの大動脈弁置換術をはじめとしたハイブリッド手術を推進する。 ・精神疾患について、閉鎖・開放病棟を保持し、救急をはじめとした他診療科と連携し、身体合併症患者の積極的な受け入れを行う。 ・救命救急センターにて1次から3次のあらゆる疾患の救急患者を24時間365日受け入れ、地域の救急隊と連携したドクターカーによる重篤症例に対する現場初期対応を行い、救命救急センターを有する大学病院として、救急の最後の砦としての役割を担う。 ・基幹災害拠点病院として、大地震の際も自立して病院機能を維持できる免震構造の病棟、自家発電を含むエネルギーセンターを備える。災害時に継続的な医療の提供を行うだけでなく、DMATを中心とした災害地域への医療チームの派遣も積極的に行う。 ・総合周産期母子医療センターとして、合併症妊娠・新生児異常などの母体や胎児へのリスクの高い妊娠への積極的な医療提供を行う。ドクターカーを利用した母体搬送による受け入れも積極的に行っていく。 ・救命救急センターと小児科が連携し、24時間小児救急を受け入れ、新生児疾患や感染症、小児悪性腫瘍等さまざまな疾患に対応する。 	
P.12	<p>【3. 具体的な計画】</p> <p>① 4機能ごとの病床のあり方について</p> <p><今後の方針></p> <p>下記表1参照</p>	<p>3. 具体的な計画】</p> <p>① 4機能ごとの病床のあり方について</p> <p><今後の方針></p> <p>下記表2参照</p>	<p>休床中病棟稼働に向けた再編を検討していくため。急性期病床から高度急性期病床への変換のため。</p>

表 1

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	1214	→	<u>1178</u>
急性期	62		<u>80</u>
回復期			60
慢性期			10
(合計)	1276		<u>1328</u>

表 2

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	1214	→	<u>1277</u>
急性期	62		<u>37</u>
回復期			60
慢性期			10
(合計)	1276		<u>1384</u>

